



♥ウミガメへの思いやりを

海は、地球上に住む私たちみんなのもの。海に関わるすべての人が、お互いの立場を理解して、海に親しむことが大切です。もちろん、アカウミガメへの思いやりも忘れずに。

◆砂浜に車を乗り入れない

田原市の太平洋沿岸では、許可のない車両は砂浜への乗り入れが規制されています。産卵巣の上を車が通ると卵が割れたり、砂が固まったりしてふ化できません。また、車のわだちに子ガメがはまって海に帰ることができなくなります。

◆照明や騒音を控える

海岸での花火や騒音、光などで親ガメがおびえ、上陸できなくなるこ

▲産卵しているウミガメは泣いているの？
ウミガメは大量の海水を飲み込んでいます。その中の塩分を濃縮して体外へ出す器官が目の上にあるために、まるで涙を流しているように見えるのです。

とや、ふ化してから、明るさを頼りに海へ向かう子ガメが、砂浜で迷って死んでしまうことがあります。

◆ごみを捨てない

海に漂うビニールをクラゲと間違えて飲み込み、多くのウミガメが死んでいます。また、ガラスや金属が落ちていると、ウミガメの体や卵を傷つけてしまいます。



▲海が泣いている
ごみの散乱する砂浜は、ウミガメだけでなく、私たちにとっても不快で危険なものです。

♥海に恩返しを

皆さんは海が好きですか？

私たちの生命の源は海であるといわれています。いわば、海は私たちの「お母さん」。そして、渥美半島の三方に広がる海は、「食」や「遊び」など、様々な恵みで私たちの生活を潤してくれています。だからこそ、砂浜や生き物を大切にしたいですね。

アカウミガメの保護活動を紹介

「あかばね塾」 ☎45局2102

平成3年に、旧赤羽根町で結成された「あかばね塾」は、ウミガメの保護や環境美化などを中心に、明日をはぐくむ地域づくりを目指し活動しています。平成13年には、その活動が認められ、環境大臣表彰を受賞しました。

◆平成20年度のウミガメ上陸・産卵記録

海岸	上陸(回)	産卵(巣)
渥美地域(小塩津～堀切)	91	37
赤羽根地域(高松～越戸)	94	78
田原地域(六連～大草)	40	23
計	225	138

(調査:ウミガメを守る会・あかばね塾)

◆塾生の声 渡辺幸久さん(高松町)



地域を盛り上げようと仲間が集まり、あかばね塾がスタートしました。ウミガメ保護は、その活動の一つ。皆さん「ウミガメのためなら」と海岸美化に協力してくれます。でも、私たちの活動なんて、ウミガメの歴史に比べれば短いもの。遠い将来に、「あかばね塾の活動があったから」と思ってもらえるとうれしいですね。私たちもウミガメも気分の良い海を、守っていければと思います。



▲エコ・オリエンテーリング

毎年、クイズを楽しみながら海岸清掃を行い、名古屋港水族館の協力を得て子ガメの放流会を行っています。水族館のふ化場では赤羽根海岸の砂を使っており、そこで人工ふ化された子ガメを放流しています。今年も8月2日(日)午後に行われる予定です。



▲表浜海岸共同パトロール

5月10日(日)に、県や田原市、豊橋市の行政と市民活動団体が共同で行った海岸パトロールにも参加。あかばねロコステーションを起点に、海岸清掃を行いながら、海岸利用者に車両乗り入れ規制のリーフレットを配布し、砂浜の保全を呼びかけました。